

# Global Energy Policy Research

GEPR (グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

## IPCC報告の論点 : 大雨は過去の再現も出来ていない

杉山 大志 · Sunday, September 19th, 2021

### IPCCの報告がこの8月に出た

。これは第1部会報告と呼ばれるもので、地球温暖化の科学的知見についてまとめたものだ。何度かに分けて、気になった論点をまとめてゆこう。



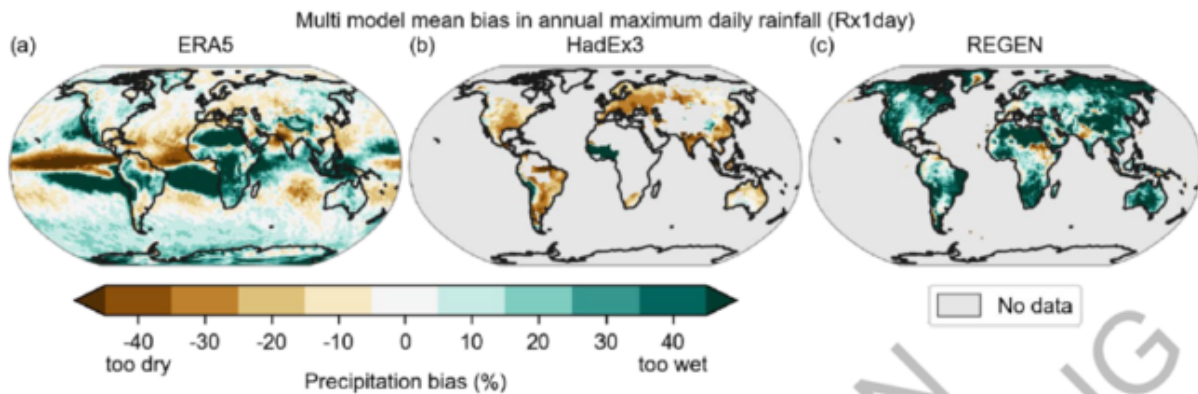
Juergen Sack/iStock

IPCC報告を見ると、不吉な予測が多くある。

その予測は数値モデルに依存している。

だが予測以前に、過去をどのくらい再現出来ているのか？

図は一年で最も降水量の多い日の雨量についての計算結果を示したものだ。対象とした期間は1979年から2014年である。気候モデルによる計算値の平均と、観測値(a,b,cの3種類)を比較している。<sup>注1)</sup>



**Figure 11.14:** Multi-model mean bias in annual maximum daily precipitation (Rx1day, %) for the period 1979-2014, calculated as the difference between the CMIP6 multi-model mean and the average of available observational or reanalysis products including (a) ERA5, (b) HadEX3, and (c) REGEN. Bias is expressed as the percent error relative to the long-term mean of the respective observational data products. Brown indicates that models are too dry, while green indicates that they are too wet. Areas without sufficient observational data are shown in grey. Adapted from Wehner et al. (2020) under the terms of the Creative Commons Attribution license. Further details on data sources and processing are available in the chapter data table (Table 11.SM.9).

(a)を見ると、海では雨量が40%も多いところ（濃い青）、40%も少ないところ（濃い茶色）が沢山あることが分かる。地上でも、ヒマラヤや東南アジアではやはり40%程度の誤差がある。

(b),

(c)は地上だけを対象にしたものだが、これもかなり大きく外れているところが随分とある。

大雨が激甚化する！という予測は沢山あるが、それはこのように過去の再現すら確認出来ていないモデルに基づいている。

別に研究者を責める訳ではない。みな一生懸命やっているのに違いない。けれども、問題が難しすぎるので、現状はこの程度だ、ということだ。

これらのモデルによる予測が全く無駄だとは言わない。けれども、予測の根拠となっているモデルの仕上がりはこの程度だ、ということは覚えておいたほうがよい。

注1) なお正確には観測値だけではなく観測値および再解析値である。再解析値とは複数の観測をもとに計算した値のことで、その内部でモデルと同様な計算をする場合もある。

1つの報告書が出たということは、議論の終わりではなく、始まりに過ぎない。次回以降も、あれこれ論点を取り上げてゆこう。

次回：「IPCC報告の論点」に続く

#### 【関連記事】

・ IPCC報告の論点 : 不吉な被害予測はゴミ箱行きに

- ・ IPCC報告の論点 : 太陽活動の変化は無視できない
- ・ IPCC報告の論点 : 熱すぎるモデル予測はゴミ箱行きに
- ・ IPCC報告の論点 : 海はモデル計算以上にCO2を吸収する
- ・ IPCC報告の論点 : 山火事で昔は寒かったのではないか
- ・ IPCC報告の論点 : 温暖化で大雨は激甚化していない
- ・ IPCC報告の論点 : 大雨は過去の再現も出来ていない
- ・ IPCC報告の論点 : 大雨の増減は場所によりけり
- ・ IPCC報告の論点 : 公害対策で日射が増えて雨も増えた
- ・ IPCC報告の論点 : 猛暑増大以上に酷寒減少という朗報
- ・ IPCC報告の論点 : モデルは北極も南極も熱すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : モデルは大気のがんが熱すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : モデルはアフリカの旱魃を再現できない
- ・ IPCC報告の論点 : モデルはエルニーニョが長すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : 100年規模の気候変動を再現できない
- ・ IPCC報告の論点 : 京都の桜が早く咲く理由は何か
- ・ IPCC報告の論点 : 脱炭素で海面上昇はあまり減らない
- ・ IPCC報告の論点 : 気温は本当に上がるのだろうか
- ・ IPCC報告の論点 : 僅かに気温が上がって問題があるか？
- ・ IPCC報告の論点 : 人類は滅びず温暖化で寿命が伸びた
- ・ IPCC報告の論点 : 書きぶりは怖ろしげだが実態は違う
- ・ IPCC報告の論点 : ハリケーンが温暖化で激甚化はウソ
- ・ IPCC報告の論点 : ホッケースティックはやはり嘘だ
- ・ IPCC報告の論点 : 地域の気候は大きく変化してきた
- ・ IPCC報告の論点 : 日本の気候は大きく変化してきた



クリックするとリンクに  
飛びます。

「脱炭素」は嘘だらけ

This entry was posted on Sunday, September 19th, 2021 at 7:00 am and is filed under  
コラム, 地球温暖化

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both

---

comments and pings are currently closed.